

Hospital & Clinic

五 稜 会 発達障害を早期診断 独自プログラムで認知行動療法

北区の五稜会病院(中島公博理事長、193床)は、独自の発達障害アナムシステムを採用し、診断確定までの期間を大幅に短縮。さらに数多くのADHD患者の治療を行ってきた経験を生かして独自の認知行動療法プログラムを策定し、生き生きとした改善につなげている。

年々、発達障害を主訴とした受診者が増加している。一方、検査の実施やさまざまな他の精神疾患等との鑑別などに多くの時間を要することから、従来は初診から診断確定まで長い場合には3

心理師による予診を活用した独自の発達障害アナムシステムを開発し、実践している。受診前に、幼少期からの発達の特徴や主訴、仕事や生活上の支障などを電話で聞き取り、初診当日は、養育者同伴の場合には生育歴や現在の様子を聴取し、各種検査を行い、総合的な情報を主治医に伝え、診断・治療方針を決定する。

4カ月を要するケースがあり、検査待ち患者も多かった。そこで、自閉症スペクトラム障害(ASD)と注意欠如多動性障害(ADHD)の可能性がある新規患者を対象に、公認

心理師による予診を活用した独自の発達障害アナムシステムを開発し、実践している。受診前に、幼少期からの発達の特徴や主訴、仕事や生活上の支障などを電話で聞き取り、初診当日は、養育者同伴の場合には生育歴や現在の様子を聴取し、各種検査を行い、総合的な情報を主治医に伝え、診断・治療方針を決定する。

予診によって、初診当日に検査、診断できた患者は9割を超えるようになり、長いケースでも初診後1〜2カ月で検査・診断確定が可能になった。こうした取り組みの一方で、診断確定者の傾向を分析した結果、就労中の20〜30代、ADHDと診断される患者が多くを占めていることが明らかになった。受診した成人期のADHD患者の主訴傾向を検討したところ、9割が不注意症状に伴う生活の支障を認識していることが明らかとなった。

この調査結果を受け

22年度整備計画をみる

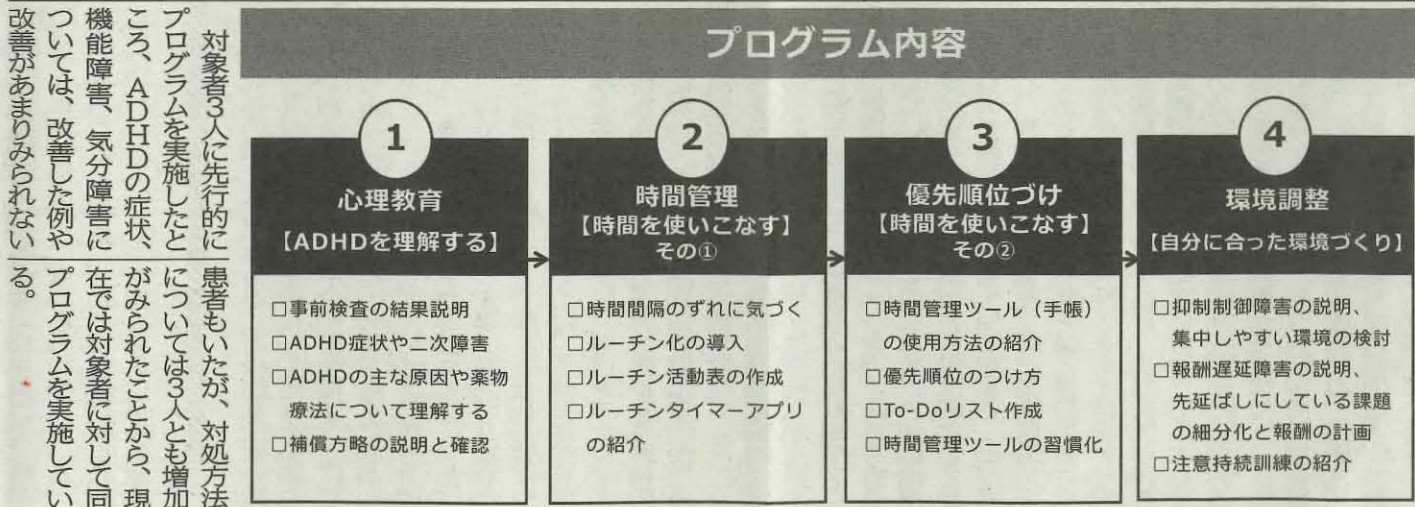
道内市立病院の20

と、札幌が病院整備費として23億1400万円を

市立病院整備
22年度

札幌 電子カルテの更新 美唄 新病院の実施設計

プログラム内容



対象者3人に先行的にプログラムを実施したところ、ADHDの症状、機能障害、気分障害に在りては、改善した例や改善があまりみられない。

継続して実施する